



島根県立津和野高等学校 3年1組学級通信

# あ む 一 る

編集ソフト: Publisher 2002(Microsoft)  
使用プリンター: EPSON LP-9300

# 学級 たより



## 第1巻第4号

### No.4

平成14年4月30日発行

学級担任: 八幡成人

小田さんニューアルバム、八幡先生の予言は果たして当たるのか?  
来週を待て!

### 能力特集



◆ 小田和正が『自己ベスト』を出した。八幡は小田さんの人間的な魅力に惹かれていた大ファンであるが、今週はその人柄を概観してみる。素敵だと思わないか?

自分にとって意味のある抵抗をせよ!自分にとって意味のない抵抗はするな!そしてその判断をするのは自分である。よく教室で紹介する言葉である。学生服のボタンをだらしなくはずしたり、シャツを出したり、髪を染めたり、ピアスをしたり、指輪をしたり、スカートを短くしたりすることが、はたして意味のある抵抗であるうか?私は疑問を感じる。54歳になつた小田和正、オフコース時代は「売れる曲」を書かなくては、という東洋病棟でホルマリンのにおいをいたした途端、自分は向いていないとおじつがあったという。毎年毎年、アルバムを作り全国をコンサート活動で回り、という因式繰りに疑問を感じ、年一作を放棄した。いいもののかできただけ聞いてもらいたい、といふ彼なりの抵抗(ボリシー)だ。そんな生き方に共感を覚える。

高校3年の文化祭では4人で「グリーンスリーブス」を合唱し評判になつた。その中には後にオフコースを組む鈴木康博と地主道夫もいた(親友との出会い)。家業が薬局だった小田は医学部を志望した途端、自分は向いていないとおじつがあったという。毎年毎年、アルバムを作り全国をコンサート活動で回り、という因式繰りに疑問を感じ、年一作を放棄した。いいもののかできただけ聞いてもらいたい、といふ彼なりの抵抗(ボリシー)だ。そんな生き方に共感を覚える。